

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0192300036		
法人名	株式会社ケアサポート		
事業所名	和みの郷ケアサポート共和		
所在地	岩内郡共和町前田11-15		
自己評価作成日	令和3年12月1日	評価結果市町村受理日	令和4年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0192300036-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部		
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階		
訪問調査日	令和4年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年で開設4周年を迎えた。4月からは新たな取り組みとしてホームページに職員紹介、活動報告を随時アップし情報を公開している。現状に満足せず、職員からの提案を積極的に取り入れ新しいことに挑戦できる環境作りを力を入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、共和町の西方向にある閑静な地域に位置している平屋建て2ユニットのグループホームである。共和町初のグループホームで、近隣には幼児センターがあるなど自然豊かな地区で、事業所の敷地内では、地域の方の協力で利用者と共に菜園を行っている。法人は、平成11年から札幌市を中心に介護付き有料老人ホームや高齢者向け共同住宅、訪問介護事業、居宅介護支援事業などを運営しており、培われた経験を活かしている。当事業所は、外観は玄関から八の字の台形型になっており、内部は中央に職員の事務室や台所があり、左右対称のユニットの作りで居室が両サイドに配置されている。突き当りには壁を挟んで、広くゆったりした食堂とリビングとなっており、大きな窓からは暖かい陽射しが溢れている。利用者は日中の殆どはリビングで寛いで過ごしている。地域の方がホームの看板を作ってくれたり、屋根の雪下ろしや除雪、夏には草刈りも手伝ってくれるなど、地域に支えられたアットホームな事業所である。これからも地域の認知症高齢者の事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホームの理念を玄関、各ユニットへ掲示し、常に理念を意識できるようにしている。また、新入社員には入社時のオリエンテーションで説明している。各年度の事業計画にも反映させている。	玄関と各ユニットに理念が掲示されており、入職時と年度替わり及び2ヶ月に1回の会議の際には理念に触れ、日々意識し実践につながるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍となり地域との交流は行えていないが、保育園の園児が訪問してくれるなどは継続できている。	コロナ禍により館内への入館は制限しているが、施設の除雪や修繕、夏の草刈りなど地域の方々の協力がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者は地域包括支援センター主催の認知症家族講座へアドバイザーとして参加している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため会議は紙面会議を継続している。委員さんからご意見をいただけるように意見書を同封している。	本来であれば家族や地域の方、共和町保健福祉課担当者や地域包括支援センター担当者、他事業所の方が参加している。現在は2ヶ月に1回、書面会議で実施し、ご家族や町内会等に議事録を送付、運営状況の報告や情報交換、意見交換を行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の他、入退去の状況を含め連携が図れている。コロナに関する助成金等の協力もしていただき備品整備に役立っている。	町独自のコロナ禍による助成金制度を、共和町保健福祉課担当者や連携を図りながら申請を行ったり、地域包括支援センター担当者や町内とも連絡を密に取り協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離設対策のためユニット玄関の他、窓の開閉制限等の対策をしている。身体拘束廃止委員会を2カ月に1度開催し、常に見直しや状況を把握することで不必要な身体拘束の廃止に努めている。	2ヶ月に1回、身体拘束廃止検討委員会を開催しており、マニュアルに沿って身体拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年、内部研修を開催し虐待について学んでいる。特に行動制限をするような声掛けをしないように心がけており、接遇マナーにも気を配っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で資料提供をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には訪問又は来所していただき、書面だけのやり取りはしていない。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱の設置の他、定期的にご意見用紙を送付している。いただいた意見を反映し、毎月の定期報告に写真を増やすなど対応している。	玄関には意見箱を設置し、毎月ホーム便りに担当者からの手紙を添えて家族に送付している。年に1度はアンケートも送付し、意見等を受けた際にはそれらを運営に反映させるよう努めている	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は各ユニット会議へ出席し、意見交換をしている。	年に1回、全職員との面談と必要時に面談を実施している。また、ユニット会議で意見交換を図り職員からの意見や提案を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者へは管理者より人事考課の報告を年3回実施している。定期昇給、賞与、昇進と能力評価に反映できている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍のため外部研修には参加できないがオンライン研修も計画していきたい。また、毎月計画に添って内部研修資料を提供している。緊急対応についてはロールプレイ実習を行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	運営推会議には隣町のGH管理者に委員を依頼し、情報交換を含め連携、協力関係ができています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず居住先を訪問しアセスメントを行なっている。また、入居に不安がある方には入居前に数回見学に来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	多職種でご家族に関わるように努めている。その際に、家族のご意見を尊重した介護計画になるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設で対応できること、できないことを説明したうえでご家族に同意をいただいている。その際に将来的な移り住みの可能性なども説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人が活躍できることを模索している。女性には台所仕事や掃除。男性には敬老会での挨拶などその方にあつた役割を支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の定期報告、都度の状態報告などでご家族様と情報共有しながら家族の意向を把握してケアに反映させている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会ができない場合でもオンライン面会や電話でご家族等と交流が出来るように支援している。	面会制限中もLINEの使用や電話などオンラインによる家族との交流を支援している。毎月ホーム便りと共に、利用者の生活状況を書いた手紙を添えてご家族に送るなど関係が途切れないよう支援に勤めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性が保たれるように食事席の見直しを行ったり、顔見知りの入居者同士がユニットを跨いで交流ができるように支援している。また、トラブルの際には職員が仲裁に入っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や入居に至らなかったケースでも、その後の状況確認などを行っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者が本人の希望を聞き嗜好品の購入代行などを支援している。また、情報が不足した場合にはご家族に連絡確認しながら検討できている。	意思表示ができる方が多く、できるだけ本人に選択してもらおうようにしている。嗜好品の購入希望を伺うなど、本人の自己決定を促せるような仕組み作りに努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族との会話の中で情報を聞き取りしている。また、重要なことは記録に落としこみ職員全体で情報共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設全体の共通体操やレクを毎日行っている他、個別の作業やレクも取り入れ、それぞれが楽しめるように工夫している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化や入退院後には見直しを行い、必要時には個別カンファレンスを行っている。	利用者ごとの担当者が日々の様子等をまとめ毎月モニタリングを行い、本人・家族の意向や医療の意見などをユニット毎の計画作成担当者が取りまとめ、3ヶ月に1度介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の他、排泄、水分などの記録にも力をいれ、提供方法や種類などを把握することで、誘導のタイミング、水分量の確保に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方の病院受診やご家族様からの急な依頼にもできるだけ対応できるように配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出行動が頻回な入居者様に対応するため地域のSOSネットワークへ事前登録を行い、いざという時に地域のお力を借りられる体勢となっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関への受診だけでなく、入居前からの主治医へ通院していただいている。また、ご家族様が通院同行する場合には詳しく情報提供することができている。	協力医療機関への受診は、看護師や職員同行で1か月1度実施。ご家族の対応で以前からのかかりつけ医をご利用の方は、受診時に詳しく情報提供を行い継続されている。看護師が定期及びオンコール体制で24時間体制で対応し、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護師との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なことに関しては、看護師が中心となり指示系統が確立されている。また、オンコール体制も整え看護師不在時でも適切な判断、指示ができています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍で入院中の面会は出来ていないが、SWさんと連絡を取り合い連携が図られている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	必要時にはご家族様に受診に同伴いただき、医師からの説明をうけていただいている。その後、ご家族様と今後の方針について協議、検討を行っている。	看取りは状況に合わせ医療ニーズの無い方について対応している。入所時や、変化時に家族に意向確認を行っている。終末期は医師との連携を図りながら看護師の指示を受け実施し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修で資料配布、ロールプレイを行っている。その他、いざという時のために緊急持出簿を作成し、ファイル化している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域に合わせた災害を想定した訓練を年1回行い、災害備蓄品の管理、点検も実施している。	火災避難訓練を日中と夜間で各1回、地震避難訓練1回の計3回避難訓練を行い、ランタンやガスコンロ、電池式のストーブなど災害時の備品も整備、点検されている。	面会制限が解除となった際は、訓練時に町民の方や家族の参加計画ができると良い。また、災害・感染症それぞれに即したBCP対策マニュアルは作成されており、令和6年3月までに、訓練実施、見直しにより、非常時の安定的・継続的なサービスの提供に期待したい。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は個別対応とし、異性介助を拒む方には同姓介助をしている。トイレ誘導等のお声掛けもさりげなく行うように配慮している。	接遇研修は年に1回の実施があり、会議等の際には、スピーチロック等とならないよう、職員間で意識を共有して利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心がけている。	来年度からは、サブスクリプション方式を利用した、スピーチロックを含めたマナー研修を予定しており、慣れや方言により人格の尊重を妨げる事の無いよう、より一層の配慮に期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分提供の種類や食事の調味料なども数種類用意し、本人の好みに合わせたものを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	レクリエーション、定例の体操などを実施しているが参加を強制することはしていない。入浴も希望する時間があれば希望に添うように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	敬老会では女性の入居者様に職員がお化粧を施した。その他、理美容も本人のお好みに合わせたスタイルでオシャレを楽しんでいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下準備、食事後の食器洗いなど日常的に行っていただいている。食レクでもそれぞれに担当の役割をもっといただけるよう企画している。	基本の食材は町内から仕入れ、職員が調理している。行事の際には桜餅を作ったり、ケーキやお寿司を取るなど食事を楽めるように心がけている。夏にはホームの畑で作ったトマトやキュウリ、かぼちゃ等も食卓に並ぶ。利用者は皮むきや片づけなどできる部分での参加が日課となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量(種類)を都度、記録しており定時の提供の他にも不足時には随時提供できている。また、嗜好、提供方法も把握できるように書面化し情報共有を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のお声掛け、介助を個人の能力に合わせて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表に時間、排泄量を都度記録し管理している。それにより、時間でのトイレ誘導で失禁を予防できている。また、オムツ等も失禁量やパターンを把握することで使用するものを検討している。	排泄記録簿をもとに、表情やしぐさをみながら声かけや誘導実施している。また、睡眠中の方をむやみに起こすことなく、排尿の検知が可能となるパルースという排尿検知器の導入により、個別の排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に毎日、ヨーグルトを提供している。便の間隔に応じて下剤を調整もしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	基本入浴日は決めているが、時間帯、入浴方法、湯温はご本人の希望に添うようにしている。	浴室は広くて暖かく、手すりも設置されている。週に2回を基本に本人の状態や希望に添えるようにスケジュールを調整している。同性介助を心がけるなど個々に沿った支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝に制限等は設けていないが、昼夜逆転を防ぐためのお声掛けや、活動への参加促し等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット毎にファイルを用意し、薬情、お薬手帳を管理しており、職員は常に目に見えるようになっている。変更等があれば申送り表に記入、申送りで情報共有ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	馴染みの趣味を継続できるように情報収集に努め、実施していただいている。施設内は季節感を感じられるように装飾にも力を入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で積極的な外出支援は出来ていないが、秋の紅葉ドライブは行なえた。その他、法等等は外出制限を緩和し、柔軟な対応ができた。	秋の紅葉ドライブの実施や、敷地内の広い庭や畑での外気浴などで外出の機会を設けている。また必要な受診の際も外出支援している。今後は感染状況により、家族と相談しながら外出対応の検討を予定している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の自己管理をされている方は数名だが、希望に応じて職員が買物代行をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話は設置していないため、施設の電話を無料で利用していただいている。また、携帯電話を自己管理されている方には使用方法や管理などを一部お手伝いすることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に温度計を設置し室温管理に努め、今年は共有部にBGMを流し、心地のいい環境作りに挑戦した。	入り口から各居室、トイレや共有スペースが見渡せる広い作りとなっており、光も差し明るい。床暖とパネルヒーター、エアコンの設置もあり居心地良く過ごせる様に工夫されている。行事の際などは、隣のユニットとの壁を開放し、広い空間でイベント開催する事もできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ダイニングテーブルの他、ソファも設置し、その方の過ごしやすい場所を選択できる。所定席の椅子には座り心地が良いようにそれぞれの座布団を設置する工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅で使用していた家具や湯呑等を持ってきていただいている。	電動ベッドが備え付けとなっており、クローゼット調の洋服掛けのスペースも設置されている。自宅で使い慣れた家具を持ち込んだり、お仏壇を持参される方もおり、本人が居心地良く過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダーの他、案内板を設置している。居室内は動線が確保されるように家具の位置に気を付け転倒予防に努めている。		